

2010 年度報告書（研究員）

氏 名	山本達也
職 位	GCOE 短時間研究員
<p>研究概要</p> <p>報告者は本年度、チベット難民社会の若者たちのアイデンティティ形成と親密圏の変容に関する研究をおこなった。とくに、芸能集団に所属する人員たちに調査をおこない、成果としては口頭発表にて公表、また執筆も鋭意進行中である。</p> <p>具体的には、これまでのチベット難民研究が前提としていた団結するチベット人像を再考に付し、揺れ動くアイデンティティのなかで人びとが模索する集団の在り方や親密圏の在り方について考察を加えた。</p> <p>同時に、本年度は理論的な深化を試みた。具体的には、「みすず」にポストコロニアル研究の代表的な論客であるゴウリ・ヴィシュワナータンのインタビューを翻訳・掲載したのに加え、来年度 8 月に出版される宗教概念論集への執筆、翻訳をおこなった。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>「インタビュー：ポストコロニアル批評と宗教」『みすず』5月号。磯前順一と共訳。</p> <p>「音楽をつくる」『コンタクト・ゾーンの人文学』晃洋書房。2011年。</p> <p>報告</p> <p>「伝統に携わる」現代インド地域研究若手研究セミナー。東京大学。</p> <p>「チベット難民若年層に見るアイデンティティの変容とその可能性」現代インド地域研究若手研究者養成セミナー。滋賀。</p> <p>「Performing traditions as a social movement in Postcolonial India」現代インド地域研究京大拠点集会。京都大学</p>	

